

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ



第143版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも  
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト

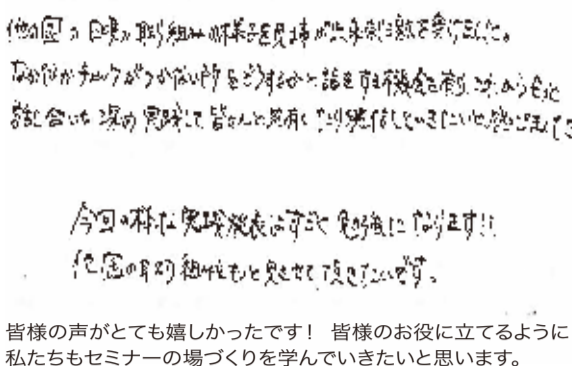


www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家総本家 聴福庵

## 学び合いの場づくり

の発表を聞いた参加者の皆様からはたくさん素敵な声も頂きました。



皆様の声がとても嬉しかったです！皆様のお役に立てるように私たちがセミナーの場づくりを学んでいきたいと思っています。

2月末に開催したミマモリ  
ングソフトウエアのオンライン  
ンセミナー（通称・ミマモリ  
ングウェビナー）の前編では、  
「子どもの今の発達状況に對  
して必要な環境づくりとはど  
んなことか」というワーク  
シヨップを行いました。そし  
て、4月末の後編のセミナー  
へ向けて、各園で出たワーク  
シヨップでのアイデアを自  
園の保育環境に用意し、数週  
間観察し、そして子どもたち  
から何を学んだのかをまとめ  
て頂きました。

「今回の様な実践発表は  
とっても勉強になります！  
他の園の実践発表をもっと聞  
いてみたいです！」、「発達課  
題に対しての他園の保育環境  
の工夫はすごく勉強になりま  
す。今後この研修をもっと告  
知してたくさん参加者と多  
くの実践発表を聞いたら尚良  
いです」と言う言葉を参加し  
た皆様が書いて下さり「参加  
者同士の学び合いの場」の必  
要性を改めて感じました。

これは見守る保育の中でい  
う「子どもたち同士の学び合  
いの場」の重要性と共通する  
ことなのだと思います。  
「参考になった学びを園内  
で深めて、また皆様と共有し  
たい」というお声もたくさん  
頂き、ウェビナーを通じた好  
循環の場が生まれていくよう  
なワクワクに包まれていま  
す。カグヤの社業を通じて、  
参加園同士の繋がりと学び合  
いの場を作り続けていきたいら  
と改めて感じるありがたい瞬  
間でした。

## それぞれが取り組む

保育環境研究所ギビングツ  
リー主催の「第55回保育環境  
セミナー」を新宿せいが子ど  
も園で開催しました。ズーム  
での同時配信も行い、オンラ  
インでは総勢四百名を超える  
先生方にご参加頂きました。



お申し込み受付中です。詳しくはギビングツリーのHPまで！

昨年1月に開催したセミ  
ナーの際に、オンライン参加  
についてのアンケートにご協  
力頂いたところ、「土曜日の  
開催だと園内研修となり、職  
員みんなで学ぶことが出来ま  
す」や「コロナ禍だからこそ、  
見守る保育について職員み  
んで学び直したい！」等の声  
を頂きました。これまでのよ  
うに、園見学や懇親会を実施  
することが難しい中で、事務  
局会議で打ち合わせを重ねて  
きました。

今年「空間的環境編・物  
的環境編・人的環境編」に分  
け、テーマごとに前編では、  
藤森代表に考え方を示して頂  
き、後編は実践発表という構  
成で開催することとなりました。  
まずそれぞれの環境の考  
え方を学び、1か月間はそれ  
ぞれの園で実践を行って頂く  
サイクルです。  
今はそれぞれの園での実践  
となりますが、研修でそれぞ  
れが気づいたことを取り組ん  
で頂くことで、四百を超える  
数の実践事例が生まれます。  
先生方が集まってセミナー  
を行えるようになった際に、  
それぞれの場所で学び、子ど  
もたちのために実践される先  
生方と一緒に語り合えるよ  
う、実践を積み重ねていき  
たいと思います。

## 保育と暮らし

先月号の竹取新聞に同封さ  
せて頂いた資料のとおり、旧  
暦6月16日はお菓子を供え  
日々の無事を感謝し「嘉祥の  
儀」を行う日。その資料を目  
にした香川県の丸亀ひまわり  
こども園の高橋園長が、たま  
たその場にいた職員にその  
いわれを話したところ、次の  
ようにあっという間に計画が  
できあがったそうです。

- ①6月の菓子「水無月」は簡  
単に作れそう
- ②5歳児と一緒に「水無月」  
を作って6月16日に食べよう  
（栄養士の先生が給食便りに  
コラム掲載）
- ③どうせなら毎月の伝統的な  
和菓子を食べよう（手作りでき  
るものは作る）
- ④せっかくなので、その時に

プチ茶会をしよう（今は年2  
回のお茶会の前に集中してお  
茶のお稽古をしているので、  
それを毎月ちよつとカジュア  
ルに、子どもたちが茶道を忘  
れない程度に）  
資料を読み「水無月」につ  
いて説明したのは園長先生で  
すが、そこから先はその場に  
いた先生たちがどんどんアイ  
ディアを膨らませ、仲間の賛  
同を得て、新しい保育計画ま  
で作られたそうです。

また、そんな風にも上や先  
輩の顔色を気にせずやりたい  
ことをどんどんやれるように  
なった背景には、毎月、職員  
間で円になり話を聴き合う  
「円対話」でフラットな人  
間関係を築けているからだ  
も教えて下さり、オープンに  
楽しく保育をされる先生たち  
の姿と、その先にいる楽しそ  
うな子どもたちの姿が目に見  
えられて嬉しかったです。



【祝い七つ菓子】  
おめでたい時に、身近にあるお菓子七種を盛り  
お祝いを。6月には「祝い七つ菓子」にちなんだ  
室礼をされてはいかがでしょうか？

そして、改めて保育と暮ら  
しは密接だと感じるからこ  
そ、子どもたちに希望ある未  
来を繋いでいくために、私た  
ちも「暮らしフルネス」を追  
求していきたいと思っています。



カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## 夏の風物詩



田植えをしたり、テレワークをしたり…。さて、今年は何？

今年もお客様へお送りする暑中見舞いはがきの準備を進めています。暑中見舞いは、一年で最も暑い時期に相手の健康を気遣う趣旨がありますが、毎年イラストレーターさんやデザイナーさんと打ち合わせを重ね、社名の由来にもなっているかぐや姫を通して少しでも涼をお届けできたらと工夫をしています。

以前は物語の中のかぐや姫のイ

メージのままに描いてもらっていましたが、古民家甦生を始めてからは古民家にいるかぐや姫の姿を。お米作りを始めてからは田んぼで子どもたちと田植えをするかぐや姫の姿を。昨年はついにテレワークをするかぐや姫が登場しました！

このようにカグヤの変化に合わせて活躍の場を広げているかぐや姫にもまだまだコロナウイルスの影響は続いています。

今年もコロナウイルスにより失われたつつある日本の伝統の夏をお客様や子どもたちへお届けできるように、またはがきを見て少しでも元気になってもらえたら、そんな思いをこめて制作中です。

お手元に届きましたら是非子どもたちや職員さん、またご家族と一緒にご覧になっていただき夏を感じていただければ幸いです。

「と決めつけていましたが、「四季折々の雨」の「雨粒・雨音・雨の匂い」などをもう少し味わう余裕があったらいいかもしれません。

あなたなら、今日の雨にどんな名前をつけますか。子どもたちには、この雨はどんな演奏に聞こえているのでしょうか。雨上がりの水たまりを見つけたら、ちょっと遊んで帰りましょうか。

### 日本の智と慧 雨の名前?!

先日、一円対話の中で「梅雨をどう楽しむか」という問いかけがありました。「梅雨をどう思うか」ではなく「どう楽しむか」と肯定的に問われ、改めて雨を眺め直してみました。

「いったい雨が好きな人はどれくらいいるのだろう」そう思いながら『雨の辞典』を開いてみると、日本には四百以上もの雨の名前がありました。日本人は、恵みの雨に感謝し、ときに水害に警戒もしながら、雨と上手く付き合う智慧を磨いてきたのでしょう。いつの間にか「雨は嫌なも



この二人の前にはどんな物語が展開されているのでしょうか？そして、何を語り合っているのでしょうか？

## 一期一会庵 リーダーの生き方

人が目的を持ち集まれば組織ができ、そこにはリーダーが存在します。そのリーダーは、もちろん最初からリーダー資質を持っている人もいますが実際にはリーダーを組織が育てていくものです。

もしも組織が能力だけが優れているリーダーを求めれば、リーダーは自ずから能力がもつとも長けている人物が選ばれます。それとは別に、もしも組織が徳の高いリーダーを求めれば徳の高い人が選ばれるのです。

そう考えてみるとリーダーはその人だけのものではなく、リーダーを囲む人々があって存在することがわかります。つまり徳の高いリーダーの周りには、一緒に徳を磨き続けている仲間がいるということでもあります。

修めていけば、自ずから徳の高い人たちが薫陶されていくということですね。その結果、徳の高いリーダーが誕生し善い政治を実践していくということでもあるのです。

仕事においてこの一緒に人間学を修めるとは、目的を共有しひたむきに真摯に取り組んでいき改善を続けていくことのように思えます。もしもそういうことをせずにどこかに優秀で完全無欠なリーダーだけを勝手に求めて、そこで善い政治をしてもらおうとしても決して都合よくはいかないものです。

もし自分にとっての都合のいいリーダーを育成すると、都合が悪くなるとすぐに文句を言って切り捨ててすぐ替えようとしています。これを繰り返していたらそのうち自分もすぐにすり替えられるようになります。

つまり真のリーダーは、お互いに徳を高め合っていくこととするのが善い組織の人たちの中にこそあるということでしょう。

まさに論語の「徳は孤ならず必ず隣あり」なのでしょう。今の自分にリーダーとしての意識があるのは周囲の人間たちも一緒に徳を磨き、徳を積んでいるからということになります。

つまり組織の中で一緒に人間学を

善い組織とは何か、それはみんなで共に学び磨き合う関係が文化として場に醸成されていることです。

どんな状況や環境下であっても人格は磨け徳は積めます。一期一会に歩んでいく道の中で子どもたちにも、徳の生き方をつないでいきたいと思

### 編集後記



咲いている途中にも色が変化することから「七変化」という別名も。

今月も竹取新聞をご覧いただきありがとうございます。本号でも梅雨について触れていますが、今だけの楽しみの中にあじさいの花があります。クルーの間ではそれぞれが見つけた綺麗なあじさいの写真を共有することが日課となっています。

あじさいの花言葉には「団らん」

「家族」「和気あいあい」などがあり、これは小さな花が集まって咲く様子からつけられたとのこと。子どもたちが集まっているようにも見えて可愛らしいです。今の時期は花言葉を添えて父の日に贈っても喜ばれそうですね。梅雨を彩る素敵なアイテムは意外と近くにあったようです。（真田由莉）

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます

